

MIYAMOTO Saburo

2022 4/1 Fri » 9/11 Sun

:The Allure of the West

宮本三郎 西洋の誘惑



《赤い背景》1938年

宮本三郎 西洋の誘惑 Miyamoto Saburo: The Allure of the West

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum

- 展覧会名 宮本三郎 西洋の誘惑
会期 2022年4月1日[金]～9月11日[日]
会場 世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館 Miyamoto Saburo Memorial Museum
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢 5-38-13 TEL:03-5483-3836 www.miyamotosaburo-annex.jp
主催 公益財団法人せたがや文化財団 世田谷美術館
開館時間 10時～18時（最終入館は17時30分まで）
休館日 毎週月曜日（ただし、7月18日[月・祝]は開館、7月19日[火]は休館）
観覧料 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上・中小生100円(80円)、障害者100円(80円)
ただし小・中・高・大学生の障害者は無料、介助者（当該障害者1名につき1名）は無料
※()内は20名以上の団体料金
※世田谷区内在住・在校の小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

◆ 宮本三郎 西洋の誘惑

石川県小松市に生まれた宮本三郎（1905-1974）が、画家を志して上京したのは1920年代のこと。ヨーロッパへ留学し帰国した先達の画家たちによって、日本の洋画に多様な展開がもたらされた頃でした。宮本もまた、1938年に初めてヨーロッパの地を訪れます。パリに拠点を置き、ルーヴル美術館に通って模写をしたり、イタリア各都市の史跡や美術館を巡るなどして、深遠なる西洋の美術の歴史にじかにふれることになりました。戦後、1952年にも再び渡欧し、フランスやイタリアのほか、スペインやギリシャを巡ります。同時代である20世紀美術の流れも目の当たりにした宮本は、帰国後さっそくキュビズム風の試みを取り入れるなど、実験を重ねるのです。また、絵画上の実践のみならず、執筆活動なども旺盛に行った宮本は、時代や流派を問わず西洋美術を研究し続けます。その知識と審美眼は周囲を驚かせるほどのものでした。

ドラクロワ、ドガ、ルノワール、セザンヌ、マティス、モディリアーニ、キスリング、ヴューイヤール、デュフィ…。宮本の作品には、さまざまな画家の絵筆をなぞるようにして、多様なスタイルがかわるがわるに立ち現れます。それは西洋の発祥である油彩画を、日本人の画家として自らのものとし追求していくための、果てしない旅でもありました。宮本三郎がその絵画のなかに辿った西洋美術への共感と憧憬、そしてその先に続く制作の展開を追います。

◆ 各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください。 ※ () は題不詳につき仮題



① 《海浜／海の記念日》1967-68年頃



② 《裸婦》1962年



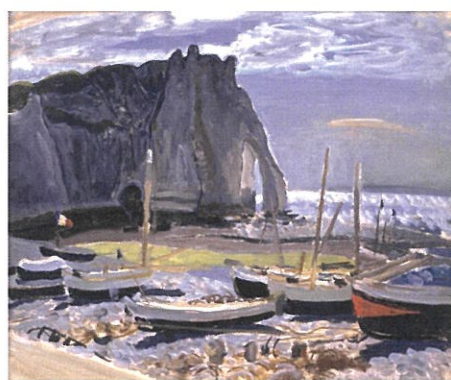
③ 《(ピアノ)》1945-48年頃



④ 《着衣像》1938-39年頃



⑤ 《化粧室の裸婦》のためのデッサン 1965年頃



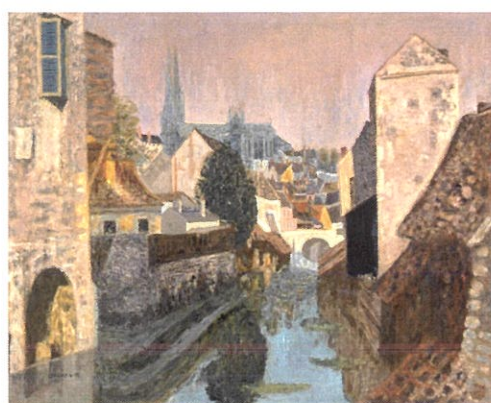
⑥ 《エトルタの海》1939年



⑦ 《裸婦》1954年



⑧ 《椅子に腰掛ける裸婦》のためのデッサン 1947年頃



⑨ 《シャルトル風景》1939年



⑩ 《赤い背景》1938年

◆ 宮本三郎記念美術館

◆ 宮本三郎（みやもと・さぶろう）について

1905年5月23日に現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。

川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》（1942年）をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界。



撮影 藤原正 撮影年不詳

◆ 講演会やワークショップ、コンサートなどの開催について

イベントの開催につきましては、当館ホームページでお知らせいたします。

[参考] 過去の活動



ニューイヤー・コンサート
アコルディ弦楽四重奏団
(2019年1月27日開催)



人ひろばvol.44
「奥沢・玉川の地域の歴史再発見！第2弾」
(2019年9月8日開催)



サマー・ワークショップ2021
「美術館をお花でいっぱい！」
(2021年8月12日～15日開催)

◆ ご来館の際のお願い

※当館では、新型コロナウイルスの感染症対策の実施にとともに、お客様にご協力をいただいております。ご来館の際には、当館ホームページの情報をご確認くださいませようお願い申し上げます。

◆ 次回展（予定）のご案内

宮本三郎と「日本」

2022年10月1日（土）～2023年3月12日（日）

◆ 交通案内

東急東横線・大井町線「自由が丘」駅下車／徒歩7分

東急大井町線「九品仏」駅下車／徒歩8分

東急目黒線「奥沢」駅下車／徒歩8分

東急バス（渋11） 渋谷駅～田園調布駅「奥沢六丁目」下車／徒歩1分

東急バス（園01） 千歳船橋～田園調布駅「浄水場前」下車／徒歩10分

※当館の来館者用駐車場は、車椅子の方用スペース1台分のみとなります

◆ お問い合わせ先

宮本三郎記念美術館（広報担当）

Email：miyamoto.annex@samuseum.gr.jp

TEL：03-5483-3836 FAX：03-3722-5181

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

※当館には展覧会担当の学芸員は常駐していません。
ご質問等は上記広報担当までお願いいたします。

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館